

避難所初動リーダー研修会



7月14日(土)、今年3回目の初動リーダー訓練を、初動リーダー32名、事務局11名が参加して実施しました。自主防災実行委員会

第1部は市民センターにおいて、昨年(平成28年)に開催した「施設の安全点検講習会」(熊本地震・中越地震等の震災で「木造」「コンクリート造り」

当日は、気温が35度を超す炎暑の中、2部構成で研修を実施しました。

柘植地域

まちづくりだより

第217号

発行 柘植地域まちづくり協議会事務局
三重県伊賀市柘植町一〇六四七番地
(柘植地区市民センター内)

発行日 千五九一四〇二
電話 四五・八八八〇 FAX 四五・八八八三
二〇一八(平成三十)年八月一日(水)

「鉄骨造り」の施設が壊れた様子を写したスライドによる点検講習)のビデオを鑑賞し、避難所となる施設を使用するにあたって必要となる「点検すべき箇所やその点検要領」を学びました。

第2部は、各初動リーダーが開設する避難所ごと(柘植小・柘植中・人権C・小杉活性化C)に分かれて、その施設のチェックポイントを確認したり、現在の状態を把握して、災害発生時に行う点検に備えました。

点検の結果、指定避難所が使用できない場合、代替施設があるのか、どう対処したら良いのかなど、今後、検討すべき内容も浮き彫りになりました。

自然災害は、日本の各地で様相を変え、度々発生していますが、いざという時には、我々のわずかな知識や経験であっても自分や家族、地域の方々の命を救うことがあります。

初動リーダーの皆さん、自分の為、家族の為、地域の為に、力を合わせて研修を深めていきましょう。



柘植地域の交通安全のために

生活環境部会
夏の交通安全県民運動初日の7月11日(水)午後、市民センターで柘植地域の交通安全課題についての懇談会を開催しました。



市議会議員の山下さん、柘植駐在所の成川さん、交通安全協会で理事を務める土屋正孝さんをはじめ協会のみなさんと様々な角度から交通安全課題について実状を出し合い、今後の啓発や活動、市や県への要望など検討しました。

朝の登校時
倉部交差点にて



年4回の交通安全運動期間中は、各区長さんを中心に柘植地域中心に街頭啓発を実施しています。7月20日に「ミルミルボード」を使った啓発も行いました。

柘植地域俳句コーナー
熊の絵の
タオル飛び出す
キャンプの荷

西野登志子

旧柘植保育園跡地関係者会議



7月10日(火)午後、「杜のカフェいこ」で、関係者会議を開きました。

この会議は、昨年10月31日に行った伊賀市とまち協の契約に基づいています。参加者は伊賀市

行政から伊賀支所振興課と同居民福祉課、杜のカフェいこ(左写真下)、ふれあいステーション都美恵(同上)、まちづくり協議会の4者が現状を確認し、今後の運営の課題などを出し合いました。今後毎月7月には関係者会議を開催する約束になっています。



杜のカフェいこ

旧柘植保育園

まち協運営委員として、地域の将来を考える

7月18日(水)夜、市民センターでまちづくり協議会の運営委員の研修を開催しました。運営委員のみならず5年10年先の地域のありようを考えることなく柘植地域の将来を語ることができません。



柘植地域で欠かせない取組とは?

「伊賀市自治基本条例」に基づく柘植地域の自治協議会である「柘植地域まちづくり協議会」。そしてその運営委員は、現在の規約では、役員・各区分長・各部会長・各実行委員代表者(合計30名)で構成され、総会に次ぐ決定機関として位置づいています。

今回の研修(4名欠席)は、5つの小グループに分かれて話し合いをした後、話し合い結果を発表しました。後述する①②の項目(整理されたものではありません)は、運営委員会としての公式発表ではありませんが、これらは『まちづくり計画』の改定にも反映していくことになることとしよう。

- ① 区・組における人のつながりを重視した高齢者対策
- ② 農林業をはじめ、すべてのジャンルで後継者(担い手)を育成すること
- ③ 防犯・獣害への対策としての空家対策
- ④ 心の教育。人の世話ができる人の育成

川上ダム本体工事に関わる資機材 運搬車両の地域内通行における再要望

いがまち3地域まちづくり協議会

6月22日のいがまち区長集会において、水資源機構川上ダム建設所から資機材運搬に関わる提案があり、それをふまえて、いがまち3地域会長連名で要望書を挙げました。その後7月11日に新たな運行計画の説明を受けましたが、改めて、今回7月20日付けでルートの変更などの再要望書を提出いたしました。

運搬ルートやその他詳しいことは、いがまち区長集会および12区連絡協議会(旧区長部会)の議題となっていますので、お問い合わせは原則として各区長様をお願いします。

完成予想図 →

- ⑤ 働く場所の確保、農林業の担い手につながる法人化や就労の場づくり
 - ⑥ 高齢者の見守り、救急医療などを見据えた地域福祉ネットワーク
 - ⑦ 地域の環境美化をこれからも継続、空家空地を減らす取り組み
 - ⑧ 人・金・物がまちづくりの原点、金が循環するよう、まち協が主となって組織を提案
 - ⑨ 少子化対策は青年層にまちづくりに参画してもらおうことから
 - ⑩ やらされ感のない組織をつくること
 - ⑪ 健康面、地域の見守り活動、一人暮らしの話し相手ができる人材育成
- ★☆☆事務局だより☆☆★
- ▼伊賀市地域包括交付金36%減の話や投票所削減の話など次々と案件が来ています。▼一人ひとりがまずは関心を高めていきましょう。(西田方計)